

令和八年第三回薩摩川内市議会定例会 施政等の概要

令和八年第三回市議会定例会の開会に当たり、現時点における諸報告と所信の一端を申し上げますとともに、このたび提案いたしました補正予算案等の概要を御説明し、議員各位並びに市民の皆様のご理解と御協力を賜りたいと存じます。

今月二日に本市に最接近した台風六号への対応につきましては、一日午前九時に第一回危機対応総合会議を開催するとともに、二日午前八時に開催した第二回危機対応総合会議において災害警戒本部を設置し、「午前十時の高齢者等避難発令」を決定しましたが、暴風域の消滅を受け、その発令を中止し、第三回危機対応総合会議において、その報告及び対応状況の確認を行いました。その後も警戒を続けましたが、本市においては大規模な被害は生じなかったところであります。梅雨時期に入り、大雨や台風による被害が発生する懸念が高まっておりますことから、今後も、災害への備えについて、万全を期すとともに、市民の皆様への迅速かつ的確な避難情報等の発信に努めて参ります。

こうした認識の下、四月十三日に、市防災会議を開催し、防災体制の確認と関係機関との連携強化を図りました。さらに、同月二十一日には防災点検を実施し、昨年の大雨災害の被災

箇所を中心に、現場での課題や対応状況の確認をいたしました。また、先月九日には、市内十五校において原子力防災訓練として児童・生徒の引渡訓練を実施し、私も視察を通じて児童・生徒の安全確保と円滑な引き渡し体制の確立と迅速な情報伝達の重要性を改めて認識したところであります。

また、同月二十九日からは、新たな防災気象情報の運用が開始され、警戒レベルとの連動性が強化されるなど、防災情報の高度化が図られております。

本市としても、制度変更に的確に対応し、情報伝達体制の強化と防災意識の更なる向上に努めて参ります。

さて、昨今の経済社会情勢は、中東情勢の影響により、エネルギー価格が不安定な状況が続き、ガソリン価格の高騰などが市民生活や事業活動に影響を及ぼしております。本市といたしましては、地域経済等の状況や国・県の対応を注視して参りたいと考えております。

一方で、本市においても人口減少と高齢化が進行する中、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境の整備は重要な政策課題となっております。医療・介護・生活支援が一体となった地域包括ケアの充実を図るとともに、健康寿命の延伸や介護予防の取組を推進して参ります。

このような中、本年四月一日付けで、私は鹿児島県後期

高齢者医療広域連合の連合長に就任いたしました。

後期高齢者医療事業の安定運営は、地域の高齢者医療を支える基盤であり、県内市町村と連携しながら持続可能な事業の運営に取り組んで参ります。

本市では、「第三次薩摩川内市総合計画前期基本計画」に基づき、総合的に施策を展開しております。また、市長公約である「未来創生一〇ビジョン」の実現を政策理念として掲げ、その具体的実行プログラムとして「薩摩川内スマイルアクション五〇」を推進しております。

まず、市役所改革につきまして、本年四月一日から組織再編を行い、新たな体制による市政運営を開始いたしました。

併せて「市役所改革プロジェクトチーム」を設置し、本年二月に更新した市役所改革方針（Ver三・〇）に基づく取組の着実な推進と社会情勢の変化に応じた柔軟な同方針の見直しを進めて参ります。本プロジェクトチームは、職員自らの意識改革の推進と組織力の強化を担う中核として、機動的な取組を通じ、市民サービスの向上と持続可能な行政運営の確立に努めて参ります。

また、先月十八日には、スマイルアクション五〇に掲げた財源確保の一環であるネーミングライツ事業として、SSプラザせんだいの多目的ホールにおいて、合同会社NWEー

09インベストメントとネーミングライセンス契約を締結いたしました。同施設の愛称は「ヴィーナ・エナジーホール」であり、「ヴィーナ」は、ラテン語で「脈（血管）」を意味し、エネルギーが社会や地域に巡る『生命線』を象徴し、また、同ホールが文化・交流拠点として広く親しまれることへの思いが込められています。今後は、広報等を通じて愛称の定着を図って参ります。

産業振興につきましては、四月一日付けで、川内港唐浜地区が新たに指定保税地域として追加指定され、税関手続の簡素化及び迅速化が図られたことにより、国際物流機能が一層強化されました。

また、四月十日には、本年三月に暫定供用を開始した川内港唐浜埠頭において、韓国の高麗海運株式会社のコンテナ船が初入港し、新たな物流拠点として本格稼働に向けた大きな節目を迎えたことから、今後の安全な航海と荷役を祈念し、歓迎セレモニーを開催いたしました。

同月二十五日には、川内港唐浜地区において、安部賢国土交通省港湾局長、塩田康一鹿児島県知事の出席の下、国土交通省九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所及び鹿児島県の共催により「国際物流ターミナル供用式」が開催されました。

同式典には、自由民主党港湾議員連盟会長の森山裕衆議院議員など多数の関係者が参列され、本港の整備効果と今後の役割について広く発信していただいたところであります。

今後も引き続き、川内港を利用する荷主、船社、荷役業者及び経済団体の皆様と一体となり、国・県に対して国際物流ターミナルの早期整備及び港湾施設の充実を強く要望して参ります。

また、先月三十日に、川内港臨海ゾーンへの交通アクセスとなる南九州西回り自動車道につきまして、五年連続となる阿久根川内道路決起大会をSSプラザさんだいにおいて開催いたしました。

なお、本年八月には、川内宮之城道路決起大会の開催も予定しております。引き続き、関係市町や関係機関の皆様と共に、早期整備の実現を目指し、機運醸成を図って参ります。

現在、国におきましては、産業資源や地域に偏在する脱炭素電源等を核とした「GX型の産業集積」や「新たな産業クラスター」を形成し、GX関連の投資を集中させることで、地域の脱炭素化と地方創生を同時に実現することを目的としたGX戦略地域制度の地域選定を進めています。この公募において、本市は、本年二月に、国が公募したGX戦略地域の「データセンター集積型」に鹿児島県と共同で申請し、国の

一次審査により、四月二十四日に有望地域に選定されました。また、本市単独で申請した「脱炭素電源活用型」についても、同様に有望地域として選定されたところであります。引き続き、最終選定に向け、関係機関との連携を一層強化して取り組んで参ります。

地域づくりの分野につきましては、四月十二日、十八日及び二十二日に自治会運営説明会を開催し、五百二十八名の自治会長の皆様に委嘱状を交付いたしました。

本年度における市の主要施策の概要や補助制度など自治会運営に関する事項等を説明するとともに、自治会長の皆様から自治会運営に関する課題や意見を伺ったところであります。四月十九日には、西之表市から招待を受け、甌島から柳原地域への移住百四十周年記念事業に下園政喜議長及び甌島の市民と共に参加いたしました。明治期の困難な時代における甌島から種子島への移住の歴史は、地域間の深い絆と支え合いの精神を今に伝えるものであり、両市交流の礎となっております。今後とも、この歴史を次世代へ継承し、交流と連携を更に深めて参ります。

また、先月三十一日には、本市とさつま町を対象とした「知事とのふれあい対話」が鶴田中央公民館において開催されました。「地域のインフラを生かした地域産業の「稼ぐ力」の向

上について」をテーマに、本市とさつま町から十名が参加し、それぞれの立場で稼ぐ力の向上について意見交換が行われたところであります。

次に、文化・歴史の分野につきましては、甑島のトシドンをはじめ、平成三十年にユネスコ無形文化遺産に登録された日本の来訪神行事一〇件の関係団体が参加する、来訪神行事保存・振興全国協議会研修会鹿児島大会が、本年十月に鹿児島市で開催される予定であります。本市・三島村・十島村で構成する実行委員会において、四月十四日に第一回実行委員会を開催し、準備を進めているところであります。また、「藺牟田麓の田の神辰し」が先月一日付けで県無形民俗文化財に指定され、本市の伝統文化の価値が改めて評価されたところであります。さらに、同月十七日には、本年二月の甑島片野浦のカノコユリ群落の国天然記念物指定を記念し、講演会を開催いたしました。また、講演に先立ち、今回の国指定に大きく寄与された文化庁文化財調査員の「寺田仁志氏」、「子岳地区コミュニティ協議会」、「子岳なんとかし隊」に対し、感謝状を贈呈いたしました。これまでの御尽力に改めて感謝を申し上げますとともに、今後、「保存活用計画」策定などの取組を進めて参ります。

市民生活の充実、観光・交流分野に関しましては、川内川

水系かわまちづくり計画に基づき、国及び本市において整備を進め、本年三月末に完成した川内川左岸天辰地区河川敷の「平佐リバーパーク」につきました。四月二十四日に、平佐西地区コミュニティ協議会と維持管理協定を締結いたしました。また、同月二十八日には、オープニングセレモニーが行われ、多くの市民の皆様でにぎわいました。今後も、平佐西地区コミュニティ協議会による管理の下、憩いと交流の場として多くの皆様に活用していただきたいと考えます。

さらに、先月五日「こどもの日」には、少年自然の家・せんだい宇宙館連携事業として「寺山こどもの日フェスタ」を開催いたしました。

竹巻パン作りやレザークラフトなどの創作体験、天体観測のほか、大型エア遊具や肥薩おれんじ鉄道のミニトレインも設置され、市内外から約六千八百人が訪れ、会場は多くの家族連れでにぎわいました。

こうしたイベントは、交流人口の増加と地域の魅力発信に寄与するものであり、今後も継続的に取り組んで参ります。

先月四日には、甌ミュージアムの開館一周年記念事業として、同ミュージアム名誉館長である国立科学博物館館長の真鍋真氏による講演会のほか、標本レプリカ作りやボルダリング等の体験型イベントを実施いたしました。また、今月

五日には、下甌島北部の鹿島町におきまして、新属新種となる哺乳類化石の発見に係る記者発表を行いました。この化石は、下甌島に分布する姫浦層群の地層から出土したもので、これまでに知られているいずれの種とも異なる特徴を有するものであります。

今回の発見は、世界的にも極めて希少であり、学術的価値の高い成果であると認識しており、貴重な地域資源の発見を学術研究の推進はもとより、観光振興や地域の魅力発信にもつなげて参りたいと考えております。

また、今日五日に、「薩摩川内市ふるさと納税返礼品アワード表彰式」を開催いたしました。本表彰は、返礼品提供事業者や寄附獲得に尽力された地区コミュニティ協議会の取組を顕彰し、返礼品開発意欲の向上と販路拡大、魅力ある返礼品の創出につなげることを目的とするものであります。本市における受賞者への動画制作やSNS発信、チラシ掲載、試食提供、有料広告などのプロモーション支援は、今後の認知度向上と販路拡大に寄与するものと期待しております。

さらに、今日六日には、昨年四月にオープンした薩摩川内アグリセンターで、園児たちによるさつまいもの植付け体験が開催されました。

この催しは、子どもたちが土に触れ、作物が育つ過程を学

ぶことで、食と農への関心を深めるとともに、親子のふれあいの促進を図ることを目的としております。

今後とも、農業の大切さを学べる機会を継続的に提供する施設として、また、本市における農業就業者の確保・育成に資する拠点として、同センターの更なる活用を進めて参ります。

このように、本市においては、第三次薩摩川内市総合計画基本構想に掲げた未来のまちの姿である「人が繋がり 人が輝く 安らぎと賑わいのまち 薩摩川内」の実現に向け、市議会の御意見や市民の皆様の声に耳を傾けながら、広聴・広報、情報公開を基本姿勢として、行財政改革や産業振興をはじめとする「薩摩川内スマイルアクション五〇」の実現に積極果敢に取り組み、薩摩川内市の未来創生に向けた歩みを更に力強く、着実に進めて参ります。

ところで、令和七年度の各会計の決算につきましては、先月三十一日出納閉鎖となり、一般会計で二十五億九百七十三万五千三百二十六円、九つの特別会計の合計額で三億一千七百六十三万二千八百十四円の実質収支となりました。

全ての会計において、健全な財政運営を堅持できましたことを御報告申し上げます。

これも議員各位の御協力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。

次に、今回の補正予算案につきまして御説明いたします。

今回の補正予算案は、一般会計において、三億五千七百九十四万四千円の増額補正を、二特別会計において、四百七十四万二千円の増額補正等を、また、二公営企業会計に係る補正を提案したところであります。

一般会計につきましては、歳出において、特定離島ふるさとおこし推進事業補助金を活用した鹿島浄化センターの整備に係る経費の計上や、消防団資機材整備事業等の経費を調整したほか、保育所等の整備に係る経費の計上や、川内港背後地整備調査に係る経費等を増額調整しております。

歳入においては、補助事業の内示等に伴う国県支出金、繰入金及び市債等の増減調整を行っております。

また、二特別会計につきましては、事業の進展に伴う歳入歳出予算の増額及び財源組替をそれぞれ実施しております。

なお、今定例会におきましては、補正予算案のほか、薩摩川内市税条例の一部を改正する条例の制定についてをはじめとする各議案について御審議をお願いしております。

提案いたしました各議案の細部につきましては、主管部・課長から説明させますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。